



看護に必要な倫理観



看護部フィッシュ活動倫理勉強会
6N病棟師長 宇田 映子

医療の高度化・複雑化、患者さんやご家族の意識の高まりや価値観の多様性により、看護職は常に多くの倫理的課題と向き合っています。そのため看護職には高い倫理性が不可欠です。

保健医療福祉サービスに関わる様々な職種と協働するチーム医療の中で、看護職は倫理的なジレンマを抱える場合があります。例えば、治療方針の選択や人間らしい最期の過ごし方、家族とのコミュニケーションなどです。職種によって倫理観に相違があっても、それぞれの専門職の違いを尊重しつつ、共通の目的である患者さんの利益を最優先に考えて公正な看護を提供しなければなりません。

自分自身の倫理的な価値観を理解し、患者さんとの日々のコミュニケーションを通して様々な視点から考え、倫理的な問題に気づき、言語化し分析して、どうすることが患者さんにとって最善かを考えることが看護職としての倫理的な判断になります。

看護部フィッシュ活動倫理勉強会では、事例検討を通して倫理的に考える力を養っています。これからも看護職として倫理的視点を持ち、患者さんに最善のケアを提供することを心掛けてきたいと思えます。



がんサロン「陽だまり」～緩和ケアチームの取り組み～



緩和ケアチーム
5S病棟副主任 東方 智香

当院はがん診療連携推進病院であり、がん医療の向上のため拠点病院と連携しながら、地域の方々に安心かつ適切ながん医療を提供することが求められています。

がんサロンとは、患者さんやご家族の方ががんのことを気軽に本音で語り合え、同じ悩みを話したり聞いたり、泣いたり、笑ったり、交流や情報交換をする場所です。

今年度よりがん患者さんやご家族が日頃の思いや悩みを語り合う場の提供を目的とした、がんサロン「陽だまり」を開設しました。陽だまりとは日光のたまり場、日が差す暖かい場所のことです。

サロンに訪れるがん患者さんやそのご家族が、この場所に来られて生きていることを感じられるよう、少しでも暖かい気持ちになれる場所として存在したいと考えております。

年に3～4回ピアサポーターが参加し、医療スタッフによるミニレクチャーの開催も予定しております。気軽にどなたでもご利用できます。是非お立ち寄り下さい。

